

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

364号

2021年6月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 国際法はハルモニたちを救うのか～戦後補償のゆくえ～

元従軍慰安婦ハルモニ（お婆さん）、遺族たちが日本政府を訴えた損害賠償請求に対し4月21日、ソウル中央地裁はその訴えを却下。再び厳しい局面を迎えた戦後補償問題に解決の方途はあるのかをQ&Aで自問自答した。（金昌範）

Q. —「主権免除」という考え方で、ハルモニたちの要求が退けられたね。

A. —主権国家の行為は他国の裁判で裁かれないという考え方やね。国際法には主に人権に対する犯罪は国境を越えて解決すべきという潮流と、主権免除という長い間の国際慣習を優先するという考え方に分かれるけど、今回は後者の考え方。どちらも一理あると言えばあるが、植民地支配下の戦時強制の問題を解決する視点が裁判所にも絶対必要やと思う。

Q. —日本政府は『それ見たことか。国際法違反の韓国が』とますます偉そうやろね。

A. —そもそも日本政府が繰り返してきた「韓国は国際法違反」の理由は、1965年の韓日条約で解決済みという理屈。実際はその条約本文の中に賠償、補償といった文言は一切なく、日本からの資金供与は「韓国経済の発展に役立つもの」とされ、もともと植民地支配と戦争被害を補償するという性格ではなかった。疎外された犠牲者が憤るのは当然やろ。

Q. —でも日本政府は、2015年の韓日慰安婦合意で「最終的かつ不可逆的な解決」を約束したとも言ってるけど。

A. —その点は2019年に韓国憲法裁判所が示した「(両国間で)書面の交換や国会での同意がなかったので、一般的(国際法的)な条約とは違う政治的な合意にすぎない」という指摘が正しい。今回の判決では、この韓日合意の基金からのお金を一部原告が受け取ったことも理由に

挙げているが、当時の政権同士の野合に原告の一部がほんろうされているのを裁判所が追認している。被害者の真の救済という司法の役割からは、あまりに遠い。

Q. —一文在寅大統領に解決の一手は？

A. —被害者に寄り添う姿勢は今後も表明するやろ。一方で、米国から日本との関係修復を迫られる中で、方向を探しあぐねているかにも見える。結局、朴正熙政権以来の長きにわたる積弊の清算を懸命に行い、裁判官らの良心を呼び覚ますしかないし、それはしてほしい。

Q. —じゃあ、解決の糸口は？  
李容洙(イ・ヨンス)ハルモニは国際司法裁判所への提訴しかない。

A. —残念ながら、これまでの判例から主権免除をくつがえすのは至難の業。おまけに提訴するためには相手国の同意

も必要。私なりに言うと国際司法裁判所には穏便な仲裁者の役割はあっても、社会正義を貫くための画期的な裁定はなかなか期待できん。

Q. —一方で、4名のハルモニは高裁に控訴したけど。勝てるのかな？

A. —厳しい決断やと思う。ハルモニたちは日本の右翼の言う「金目当て」ではなく、日本が悪いことをちゃんと認め、軍国主義を二度と復活させないという信念だと思う。自らが被害者であるのに歴史的使命感を背負って闘っている。私たちは、そんなハルモニたちの背負っている荷物をちょっとずつ肩代わりできるよう、闘い続けていかなければと思う。

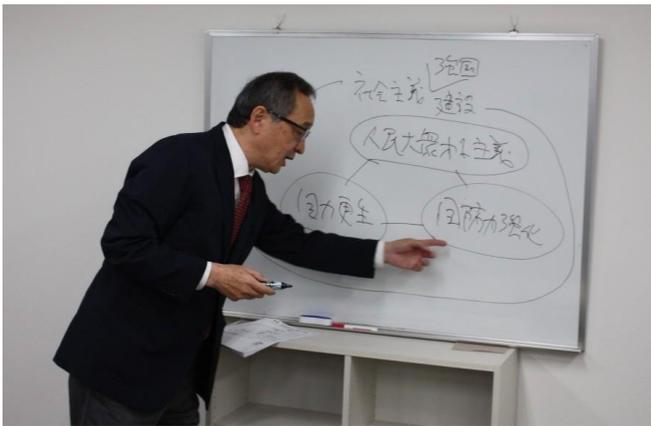


▲ソウル地裁の判決を批判する李容洙ハルモニ

## 光州民衆抗争の真相を究明し 責任者を処罰しよう！ 光州民衆抗争41周年オンライン集会

1980年5月の光州民衆抗争から41周年を迎え、韓統連の主催で「光州民衆抗争41周年記念 在日韓国人集会」が5月15日(土)、オンラインで開催された(YouTubeで配信)。

集会では映像資料の上映後、宋世一(ソ・セル)韓統連委員長が主催者挨拶を通じ「光州民衆抗争は、私たち韓統連にとって自主・民主・統一運動の方向性を決定づける契機となった。光州精神を継承しながら運動のさらなる発展を期したい」と語った。



### ▲ホワイトボードを活用して情勢講演をする宋委員長

続いて、宋委員長が情勢講演を行った。宋委員長は初めに「この間、光州民衆抗争の真相究明は進まなかったが、最近、当時の戒厳軍将兵の証言が明らかになるなど、徐々に真相が明らかになっている」と語った。

次に宋委員長は、朝米関係について「ハノイでの朝米首脳会談が霧散して以降、朝米対話は停滞しており、むしろ韓米合同軍事演習などによって

緊張が高まり続けている」と現状を解説。「バイデン政権が韓米合同軍事演習、経済制裁、人権圧迫といった敵対行為の全面中止など、大幅な方針転換が対話局面への前提条件になる」と指摘するとともに、停滞している南北関係については「文在寅政権が南北合意を誠実に履行してこそ、統一への道は開かれるのであり、文在寅政権は今こそ光州精神に立ち返り、民族自主の立場を堅持しなければならない」と強調した。

情勢講演後は、韓成祐(ハ・ソウ)韓青中央本部委員長が決議文(3Pに全文掲載)を朗読し、オンライン集会は終了した。

## 仲間の不当逮捕に抗議するとともに 韓国サンケン労働者の復職を訴える！ サンケン電気大阪支社前抗議行動

サンケン電気株式会社(本社：埼玉県)が韓国サンケン労働者を一方的に解雇したことに抗議するとともに、労働者の完全復職を求めるサンケン電気大阪支社(大阪市北区)前抗議行動が5月26日(水)、韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会の主催で行われた。

抗議行動では初めに、去る5月10日「韓国サンケン労組と連帯する埼玉市民の会」メンバーが本社前抗議活動中、埼玉県警新座署に不当逮捕・連行されたことに対する抗議の声をあげた。

続いて、抗議行動に参加した団体・個人からサンケン電気大阪支社に対し「不当解雇を撤回して、韓国サンケン労組との対話に応じるよう本社に伝えろ」などを訴え、最後に参加者全員でシュプレヒコールを行い、抗議行動は終了した。

## 韓統連大阪本部 LINE公式アカウント

韓統連大阪本部の行事案内などを、いち早くLINEでお届けします。LINEの友だち追加から、下記のID検索をして頂くか、横のQRコードをスキャンして頂くと参加することができます。ぜひ参加してください！

**ID検索 @214emqtq**



## 光州精神を継承し、民族自主を争取しよう！ 光州民衆抗争41周年記念 在日韓国人集会決議文

韓統連は全国各地で光州民衆抗争41周年記念集会を予定していましたが、緊急事態宣言の延長により集会を中止し、5月15日にオンライン集会に変更して開催しました。今号では集会で朗読・確認しました決議文を掲載します。

歴史的な光州民衆抗争から41周年を迎えた。1980年5月、光州地域の学生、市民は全斗煥軍部勢力が投入した戒厳軍に対して、民主を守り抜くために、果敢に立ち上がり決死的に闘った。光州民衆抗争は、歴代の軍部独裁の背後には米国が存在することを事実をもって明らかにし、それまでの反独裁民主化闘争を反外勢民族自主化闘争へと発展させるうえで、大きな契機となった特筆すべき民主化闘争である。私たちは、この光州民衆抗争の闘争精神、光州精神をしっかりと継承していこう。

光州民衆抗争はその後、民主政権により光州民主化運動として認定されたが、戒厳軍による学生、市民へのし烈を極めた弾圧は、全ぼうが明らかになったとはいえず、発砲命令に象徴される全斗煥への責任追及も途上にある。弾圧の真相究明と責任者の処罰を必ず成し遂げ、光州の英霊にこたえなければならない。

バイデン米政権は朝鮮やロシアも念頭に置く中国包囲圧迫路線に同盟国・韓国を巻き込む戦略のもと、米国への従属圧力を強化している。米国は、南北合意に反し朝鮮半島に軍事緊張・対決をもたらす韓米合同軍事演習を強行し、韓米防衛費分担協定を通じて高額の防衛費分担を韓国政府に強要し、韓米ワーキンググループなどの「協議機構」を使って南北関係を制御している。米国による民族自主権への支配と干渉に徹底して反対し、わが民族の団結した力でこれをはねのけることは、至急の課題である。

2018年の板門店宣言とピョンヤン共同宣言により始まった祖国の平和と統一への画期的な歩みは、米国の干渉と文在寅政権の自主性の喪失に

より、残念ながら、現在、停滞している。これを打開するためには、バイデン政権は朝鮮に対する敵視政策を放棄・転換すること、文在寅政権は民族自主の立場で民族の利益を第一に考え、南北合意を誠実に履行することが求められている。

文政権はキャンドル市民革命を背景に誕生した政権である。キャンドル市民は、朴槿恵政権に象徴される歴代保守勢力の積弊を清算することを強く求めており、それが十分でないために4・7再補欠選挙では政権を厳しく審判した。積弊清算は



▲光州市で開かれた41周年記念式

国民の要求にこたえて民主社会大改革を果敢に進めることを軸にしながら、これに反対する積弊・保守勢力との闘い、その背後にある米国の干渉を打ち破る闘いとも固く連結している。徹底した積弊清算は、大統領選挙で勝利し次期民主政権を創出する基盤と動力を準備するうえで、決して欠かせない重要な課題だ。

文政権は積弊清算を必ず貫徹しなければならない。

私たちは光州精神を継承し、自主・民主・統一を一日も早く実現する燃える決意を再度、確認しながら、次のとおり決議する。

1. 光州精神を継承しよう！
1. 光州弾圧の真相究明と責任者処罰を求めよう！
1. 米国による民族自主権への支配と干渉に反対しよう！
1. 文在寅政権は南北合意を履行し積弊清算を貫徹せよ！
1. 組織の統一と団結を強化しよう！

2021年5月15日

光州精神を継承し民族自主を争取しよう！  
光州民衆抗争41周年記念在日韓国人集会

## 【翻訳資料】

5・18当時 狙撃手を配置して市民を照準射撃  
戒厳軍将兵の証言相次ぐ

1980年5月18日、光州民主化運動当時、戒厳軍が主な建物の屋上に狙撃手をあらかじめ配置し、市民を無差別に射撃したという当事者の陳述が明らかになった。これに伴い過激な武装デモ隊のためにやむを得ず発砲したという全斗煥(チョンドゥファン)新軍部の「自衛権」の主張は説得力を失うものとみられる。

5・18民主化運動真相究明調査委員会は5月12日、ソウル市内の事務室で記者懇談会を開き、去る1年間の調査内容を発表した。

調査委員会は5・18当時、第3空輸旅団が5月20日午後10時以後、光州駅でM60機関銃を設置して市民を殺傷したという加害者陳述を確保した。さらにM1小銃にスコープ(照準器)まで装着して発砲を行った。

当時、光州駅広場はデモが拡大していたが、機関銃を設置した後、非武装の市民に向かって発砲が行われ、多数の死亡者が発生した。

第11空輸旅団は5月21日午後1時頃、全南道庁前に集まったデモ隊に向かって集団発砲をした直後、錦南路にある主な建物の屋上に狙撃手を配置して照準射撃をしたという陳述も確保した。集団発砲に驚いて逃げたデモ隊を一人一人狙って発砲したわけだ。

翌日の5月22日以後には、光州郊外周辺を封鎖する作戦をした第3空輸旅団が、光州刑務所監視塔と建物屋上にM60機関銃を設置するとともに、M1小銃にスコープを装着して市民を殺傷したという証言が確保された。

また、光州刑務所近くの光州一順天間高速道路と光州一タミャン間の国道を往来する車両と民間人に対する無差別射撃が、最低13回以上の車両襲撃事件があったという事実が証言と文献を通じ

て確認された。

この間、被害者と目撃者の証言で戒厳軍の照準射撃疑惑は何回も提起されたが、加害者である当時の戒厳軍将兵が直接事実を認める陳述をしたことは今回が初めてであり注目される。調査委員会関係者は「5・18当時、現場に投入された将兵中522人に会い、その中でM60で直接射撃したり、M1小銃にスコープを付けて発砲したという陳述など58人の陳述を確保した」と説明した。これらの証言が今まで明らかにされなかった発砲命令者、または発砲責任者を糾明するのに重要な

役割をするのか注目される。

この間、全斗煥と新軍部指揮部は「過激なデモ隊による急で差し迫った状況で、自衛のために発砲することになった」と主張、「発砲命令を下したことはない」と責任を回避してきた。ソン・ソンテ調査委員会委員



▲光州刑務所周辺での発砲を解説する調査委員

長は「狙撃手を配置した事実自体は、発砲が自衛権次元という(全斗煥新軍部の)主張と相反するのではないかという個人的な考えを持っている」と語った。そして「内乱と内乱目的殺人罪を犯した核心責任者は率直な告白も、ただ一言の謝罪もない。それにもかかわらず当時、光州に戒厳軍に投入された将兵たちの勇気ある告白と証言が続いている。戒厳軍に投入された将兵たちの証言を分析した後、新軍部核心関連者に対する調査に活用する予定だ」と説明した。

また「私たちが使える方法を全て使うだろう。ひとまず召喚状を送って召還要求に応じなければ書面調査をして、これも応じなければ捜査機関に調査を依頼する。ここに全斗煥氏も当然含まれる」と明らかにした。(韓国インターネット新聞民衆の声より)

## 【コラム】 コロナ後の世界に待っているもの

### ●世界が直面したコロナという難題

2020年。世界は超難問に直面しました。これまでに体験したことのない「新型コロナ」というウイルスとのたたかいです。それは答えのない問題でした。そして世界の中で、韓国だけが模範解答を提出しました。

韓国が取った方法は他の国々とは全く違っていました。クラスターが発生したら徹底的に疫学調査をし、濃厚接触者を次々に割り出します。PCR検査を大量に実施し、陽性者を発見して隔離して感染を食い止めるという、ぼう大な作業と労力を要する方法です。疫学調査と陽性者の隔離によって拡散を食い止めることが、コロナに対する一

番正しい対処法だと知っていたからです。火事をボヤのうちに発見して、大火事になるのを防ぐというやり方です。この作業を行うにはとてつもない数の公的人力が必要になります。効率を重視し、公的部門をカットしてきた先進諸国にはとうてい

まねできない地道な努力が必要な方法なのです。新自由主義経済をとるアメリカやヨーロッパは、コロナの前でなすすべもなく崩壊していきました。おびただしい数の人々が亡くなり、経済的に破綻に追い込まれました。世界の中ではコロナの被害が少ないといわれている日本ですが、現在、変異株が大流行し、すさまじい勢いで感染者が発生し続けています。大阪では日々数十名の人々が亡くなっている悲惨な状況です。緊急事態宣言を出し、超強度の規制をするしかない状況に追い込まれています。

5月30日時点における韓国と日本のコロナの発生状況を比較してみましょう。▲累計のコロナ陽性者数：韓国約14万人／日本約74万人（日本は韓国の約5倍）。▲死亡者数：韓国1,957人／日本12,930人（日本は韓国の6,6倍）。▲1日の陽性者数：韓国480人／日本3,594人（日本は韓国の7,4倍）。



▲防護服を着て新型コロナ患者の病棟に向かう医療従事者たち(韓国・大邱市)

2021年の韓国の人口は5,171万人、日本が1億2,557万人ですから日本の人口は韓国の約2,4倍です。人口の差を考慮しても、日本と韓国でのコロナの被害状況の圧倒的な差異がわかるでしょう。

災害をくいとめる最善の方法は未然に防ぐことです。起こってからでは遅いのです。今の日本の対処法はすべて「起こってから対応する」というやり方です。未然に防ぐ方法を取ることができないのは、それまでに公的な人力を大量にカットして来たからです。国内のワクチンの接種率も遅れている現状では、コロナの感染拡大はこれからも続くでしょう。そして経済は大きく衰退して行くでしょう。

### ●「パラダイムの転換」

#### その先に待つ新しい世界

「パラダイムの転換」という言葉があります。これまでの価値観がすべて変わる瞬間です。私たちが直面している、まさに今が歴史の転換点なのです。コロナ

前とコロナ後の世界は、これまでとは全く違います。

ヨーロッパは衰退の道をたどるでしょう。数回にわたるロックダウンで経済は回復不能な打撃をこうむっています。日本も同じです。一方、韓国はこれからワクチン生産の基地国となり、経済的にも日本を追い抜き、豊かな国になるでしょう。その後には朝鮮半島の統一が待っています。

コロナという絶望を乗り越えて、ようやく私たちの理想の世界がやって来るのです。それは弱い者どうしが助け合い、力を合わせて、人間が人間らしく生きられる社会です。

氷の上に火を点（とも）し

熱い心をきたえなければ

夜が明けるまでは

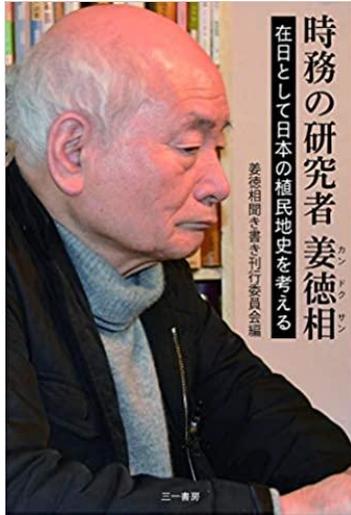
チョン・ヒソン〈夜が明けるまでは〉

キム・ヘス

**【書評】 時務の研究者 姜徳相 在日として植民地史を考える**

姜徳相聞き書き刊行委員会編、三一書房、2200円+税

本書は、在日の歴史家・姜徳相(カン・ドクサン)氏のオーラルヒストリー(歴史に生きてきた人の証言による記録)である。著者と並ぶ「在日史学」の先頭走者で、歴史的な名著『朝鮮人強制連行の記録』(未来社)を著した朴慶植(パク・ギョング)氏は著者に、朝鮮人強制連行に取り組むことは「時務の歴史」、つまり「今歴史家がやらなければならない仕事」だと語ったという。著者は、これに強く共感し、時務としての歴史家の使命から、日本人が手をつけなかった関東大震災の朝鮮人虐殺の実相を世に問い、また分断によって本国で消されてしまった独立運動家・呂運亨(ヨウウンジョン)を研究し、全4巻の『呂運亨評伝』(新幹社)を刊行した。そのどちらも大きな反響を呼び、それぞれ歴史的評価を一新させる影響を与えたことはよく知られている。評者も含め、姜氏の仕事で学んだ者は少なくないだろう。



ともに、著者独自の人生が提示され、それを読者自身の人生に重ねることによって、ある確かな歴史観がリレーされることにある。姜徳相少年が「(朝鮮人である)自分を隠し」たかったのは、「日本がいかに差別社会か」ということによる。そこから自分を取り戻し「日本が大きく曲がるとき、必ず朝鮮がある」との現在に続く関係、つまり「日清、日露戦争というが裏に何があったのか。甲午農民戦争、義兵戦争、朝鮮人の虐殺の歴史があった。(中略)3・1運動の後に関東大震災(の朝鮮人虐殺)があった」。そして現在の「慰安婦」、徴用工問題、ヘイトスピーチとヘイトクライムの地金である日本社会の植民地主義――。

だから「やっぱり民族を取り戻すということ。これは思想じゃないんですよ。南北に分かれているのは右と左で、それは思想です。その裏には共通の民族体験がある。これを回復するという、これが一番大事です」と著者は結論づける。

もうひとつ、姜徳相氏と同時代に朝鮮史研究の地平を開いた在日朝鮮人の学者たち、梶村秀樹氏をはじめとする日本人の学究たちとの交流、そして日本の朝鮮植民地支配関連資料の発掘と、朝鮮総督府の生き証人からの聞き書きの顛末など、興味がつきない語り。これも本書の得がたい魅力である。時代の証言を残された著者と刊行委員会に拍手を送りたい。(黄英治)

◆◆行事案内◆◆

<p><b>韓統連セミナー2021</b>                  シリーズ「ウリ近代史」その1(1840年頃～1907年)                  「列強の侵略と闘う民衆」                  ～激動する世界史と朝鮮民族の前途～                  日時：7月18日(日) 午後1時30分 受付                  午後2時 開会                  場所：KCC会館5階ホール                  (地下鉄今里駅2番出口から徒歩7分)                  報告：金昌範 韓統連大阪本部副代表委員                  参加費：800円(青年学生500円)                  主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723(崔)</p>	<p><b>ドキュメンタリー映画</b>                  「私はチョンソンスラムです」上映会                  日時：8月14日(土)                  場所：東成区民センター大ホール                  (地下鉄今里駅2番出口から徒歩3分)                  上映時間：①10:00～11:40 ②12:30～2:10                  ③3:00～4:40 ④5:30～7:10                  ※開場は上映開始時間の20分前からです                  前売り：1000円(当日1500円)                  主催：同実行委員会 06-6711-6377</p>
--	--

